

平成 17 年度受託業務
「最先端学術情報基盤の構築に関するコンテンツ整備」成果報告書

北海道大学附属図書館

1. 実施内容

最先端学術情報基盤（CSI）の構築の一環として、北海道大学が産出する学術研究成果等の蓄積・公開を推進する。上記の目標を達成するために、必要とする機器及び人材を確保するとともに、当事業に係る内外の同種事例の調査研究を行いつつ、下記の計画に基づきコンテンツ整備を進める

- (1) 北海道大学経営層及び研究者への広報を行う。
- (2) 北海道大学所属研究者の発表論文を調査し、北海道大学機関リポジトリへの資料提供要請・搭載を行う。
- (3) 上記に加え、北海道大学が産出する多種多様な学術コンテンツの整備を図る。
- (4) 北海道大学所蔵の北方資料総合データベースの OAI-PMH 対応を行う。

2. 成果

- (1) 北海道大学経営層及び研究者への広報を行う。

次に挙げる広報資料を作成し、研究室への配付・説明会等での配布により、本学機関リポジトリの知名度向上をはかった。

・ ポスター	2 種	200 部
・ チラシ	2 種	6,000 部
・ 折チラシ	2 種	4,000 部
・ クリア・ファイル	4 種	4,000 部
・ 生協食堂設置用三角スタンド	1 種	300 部

また、広報紙「HUSCAP レター」（1～3 号、各 3000 部）を印刷・刊行した。

- (2) 北海道大学所属研究者の発表論文を調査し、北海道大学機関リポジトリへの資料提供要請・搭載を行う。

アウトソーシングにより、コンテンツ収集及びインセンティブ増進を目的としたシステ

ム開発を実施した。

① コンテンツ収集

- (ア) 文献データベースから本学研究者の著作文献を定期的に抽出
- (イ) RoMEO 調査。わからなかったら英語担当スタッフが直接出版社へ照会。
- (ウ) 著者の所属研究室調査。「著者版ください」メール。(Pub 版 OK のものであれば「許諾だけください」メール)
- (エ) 目録担当スタッフが IR へ登録

② システム開発 (DSpace への機能追加)

- (ア) 研究紀要の電子ジャーナル化表示サイト
- (イ) 電子メールによる、文献提供者へのダウンロード数自動通知機能
- (ウ) 高頻度ダウンロード文献ランキング表示

また、同じくアウトソーシングにより、出版者版電子ファイルの機関リポジトリ収録が可能な米国物理学会ほか全 5 社の学術雑誌について、遡及的コンテンツ収集を実施した。

- ① 本学研究者の発表文献を過去 25 年間分調査
- ② 著者の所属研究室調べ。「許諾だけください」メール
- ③ 目録担当スタッフが IR へ登録

本作業にあたっては、本学から電子ジャーナルにアクセスできない（出版者版電子ファイルの入手ができない）学術雑誌については、学内所蔵誌については冊子を、非所蔵誌については ILL により入手した複写文献をスキャニングし、機関リポジトリに搭載した。

(3) 上記に加え、北海道大学が産出する多種多様な学術コンテンツの整備を図る。

講義ノートや実習指針等、教育資料の収集・蓄積をすすめたほか、研究紀要の電子ジャーナル化支援プロジェクトを実施し、以下の研究紀要を本学機関リポジトリに収容した（平成 18 年 4 月 21 日現在）。

- ・ 衛生工学シンポジウム論文集
- ・ 経済学研究
- ・ スラヴ研究 (Slavic Studies)

- ・ 北大法学論集
- ・ 北海道大学大学院農学研究科邦文紀要
- ・ 北海道大学電子科学研究所技術部技術研究報告集
- ・ 北海道大学農経論叢
- ・ 低温科学 (Low Temperature Science)
- ・ Acta Slavica Iaponica
- ・ Economic Journal of Hokkaido University
- ・ Japanese Journal of Veterinary Research
- ・ Journal of the Graduate School of Agriculture, Hokkaido University
- ・ Journal of the Graduate School of Letters

このうち、

- ① 国立情報学研究所による学術雑誌公開支援事業における既電子化紀要についてはメタデータ及びPDFファイルの提供をうけ、本学機関リポジトリに搭載した。このため、アウトソーシングによりデータインポートのためのデータ変換ツールの開発を行った。
- ② 未電子化紀要のバックナンバーについては、編集委員会から裁断可能な残部の提供を受け、アウトソーシングによりスキニング、PDF化及びメタデータ作成を行った。

(4) 北海道大学所蔵の北方資料総合データベースのOAI-PMH対応を行う。

最先端学術情報基盤の構築のテーマのひとつとして掲げられている「電子図書館の再生」の一環として、アウトソーシングにより「北方資料総合データベース」の再構築(OAI-PMH対応)を行った。

(5) その他

当事業に係る内外の同種事例の調査研究の一環として、

- ・ 図書館総合展
- ・ 国立大学図書館協会シンポジウム
- ・ 千葉大学「機関リポジトリ実務担当者によるワークショップ」
- ・ トロント大学、ロチェスター大学、DASER-2

- ・ クイーンズランド工科大学、オーストラリア工科大学、OpenRepositories2006

に人員を派遣した。OpenRepositories2006 では DSpace Meeting において、本学理学研究院数学専攻で構築された分野特化型電子論文アーカイブ「数学の海」及び国立情報学研究所メタデータ・データベースとの相互運用に関する事例報告を行った

以上により、

- ・ 機関リポジトリ「北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)」4,094 件
- ・ 電子図書館「北海道大学北方関係資料総合目録(β 版)」56,000 件

のコンテンツを蓄積し、OAI-PMH を通じて公開した。

3. 本件に関する照会先

北海道大学附属図書館情報システム課 (repo@lib.hokudai.ac.jp)